

第53回 金門包丁の切れ味

時は1949年夏、場所は台湾、国民党と共産党が全国統一を競い合ってきた国共内戦も最終段階に入り蒋介石率いる国民党は崖っぷちに追い詰められていた。日中戦争が1945年8月に終わり、その後まもなく始まった内戦において、当初圧倒的優位に立ち人民解放軍を駆逐していた国民党は、腐敗現象と内部抗争により徐々に人民の信頼を失い、彼我の形勢は一気に共産党側に傾き始めた。1948年9月の遼瀋戦役で、国民党は林彪率いる東北野戦軍に敗れて満州を失う。続く年末から49年初にかけての淮海戦役において、国民党は鄧小平指揮する中原野戦軍に大敗を喫し、長江の南へなだれを打って敗走し始めた。首都重慶はまだ国民党の支配下にあったものの、蒋介石に残された版図はほぼ福建省と台湾のみとなりつつあり、この地とて人民解放軍の怒涛の進撃の前には風前の灯であった。

誰もがこれでチェックメイトと思ったちょうどそのとき、国民党は大陸の廈門(アモイ)を放棄して、その対岸5キロに位置する小さな金門島(全12島の総面積=約150平方キロ)に逃げ込む。勢いついた人民解放軍は、これを追って一気呵成に金門島の古寧頭地区に乗り込み、楽々と上陸に成功する。そして2万人を超える人民解放軍が攻撃を開始したちょうどそのとき、突如島陰や塹壕に隠れていた国民党軍が出現し、艦艇数百隻を焼き払い、海陸双方から解放軍を挟撃、その結果上陸軍は一敗地に塗れて壊滅する。当時戦意をほとんど喪失していた国民党とは思えない奇跡の大勝利であった。日本の戦国時代に、劣勢の毛利元就が陶晴賢を厳島に誘い込んで撃滅した合戦によく似た戦術である。もし毛利元就が厳島(宮島)ではなくて陸地側の地御前で戦えば勝機はなかったのと同様に、あの日国民党がメンツにこだわり廈門で戦えば、台湾はお仕舞いであった。どうして当時の国民党にあれほど優れた作戦を立案する気力が残っていたのか、昔から不思議に思っていたのだが、最近集英社から出版された門田隆将氏の「この命、義に捧ぐ～台湾を救った陸軍中将根本博の奇跡～」を読んで腰が抜けるほど驚いた。

この作戦は1949年の7月、台湾北部の基隆(キールン)港にぼろぼろの薄汚い小船(26トン)が漂着し、草臥れ果てた7名の日本人が上陸したところから始まる。国民党と一緒に戦うために九州から船に乗ってやって来たと言主張する日本人を国民党は信用せず、監獄にぶち込んでしまう。無理もない。助太刀に来たというが、乗ってきた船は軍艦ではなく、焼き玉エンジンのいわゆるポンポン船、7名の日本人は丸腰で釣り竿は持っているが武器は携帯していない。うさん臭い密輸業者か、少し頭のおかしい日本人だと思ったのは当然だろう。なんと奇妙な日本人が監獄で訳の分からないことを叫んでいるという噂は徐々に巷に広まり、二週間後には国民党の司令官たちの耳にも届く。そして、初老の日本人が「自分は元陸軍中将の根本博である」と名乗っていると聞いた途端、司令官は飛び上がる。根本中将は終戦時の駐蒙軍司令官であり、終戦の8月15日を過ぎても侵攻を止めない暴虐な連軍から在留邦人を守るため、上層部からの武装解除命令を拒否して戦闘を継続し、在留邦人4万人と軍人35万人を国民党支配地まで連れ出し、漸く中国軍に対して武装解除を行った猛将である。敵味方の関係ではあったが、蒋介石を始め国民党のなかに友人知人も

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

多く「あの人ならやりかねない」と確信した彭孟緝 中将（後に最期の駐日大使）たちは息せき切って監獄に駆けつけ、根本中将と再会を果たす。

中将は、終戦時に蒋介石が日本人を無事帰国させてくれた恩義に報いるため、明石元二郎（陸軍大将・台湾総督）の長男の手引きで日本を密出国し、米国のトルーマン大統領から軍事援助の停止を通告されて四面楚歌の状況に追い詰められていた国民党を支援に来たと説明して彼らに感激させる。そして蒋介石と面談した根本中將は林保源という中国名に変え、陸軍中将待遇で湯恩伯將軍の顧問に就き、破竹の勢いで台湾に迫る人民解放軍を出迎えに福建省の廈門に赴く。最終的に廈門を放棄して金門島に渡るのだが、根本中將が金門戦争でどのような役割を果たしたのか？ 実戦指揮か、作戦立案か、それとも単なる観戦に過ぎなかったのか、その後台湾当局も根本將軍も沈黙を守り続け立ため、これまで謎に包まれていたが、2009年に台湾国防省が根本將軍たちの功績を公式に認め、また最近公開された蒋介石日記もこれらの事実を裏付けており、戦後約60年経って漸く根本中將たちの存在が明らかになったのである。いずれにしても金門島の攻防戦で採用された戦術が本邦「贛島合戦」そのものであったことは極めて示唆に富む証左といえよう。

この戦争のあと、蒋介石は岡村寧次大将に旧日本軍人からなる軍事顧問団の派遣を要請し、富田直亮（少将）を団長とし、山下耕（少佐）や河野太郎（少佐）を始めとする約80名の将校たちが密かに台湾に渡り、20年にわたり台湾軍の近代化に協力する。富田団長が白鴻亮という中国名を名乗ったことから「白団」と呼ばれたこのグループの存在は以前より知られていたが、根本中將の台湾渡航はその前の出来事であり「白団」のような政治背景の存在しない義侠心の世界の椿事であった。「義によって助太刀いたす」とは時代劇でよく耳にする台詞であり、現代の若者にとっては時代錯誤の臭いが強い表現だろう。いまから見れば彼ら旧軍人たちのとった行動は褒められたものではないし、彼らを上手く利用した蒋介石の政治手腕が一枚上手であったと理解すべきであろう。しかしながら日本経済が大きく落ち込み、そのせいでもないだろうが、殺伐とした雰囲気の世界現象を見るにつけ、いまの日本人に大きく欠けているのは義の精神ではないかとも思うのである。

平和な時代となり、いま金門島は兩岸の中国人や外国人観光客に開放されている。金門島で一番有名な観光土産は、金門菜刀（包丁）である。人民解放軍が大陸から撃ち込んできた大砲の破片を加工して作った中華包丁だそうで、いかにも切れ味が悪そうだが、大陸からの観光客には大人気だといふ。あまり趣味が良いとは思えないが、お金の匂いがすれば、かつての戦争まで商売のネタにする台湾海峡兩岸の方々の商魂は逞しい。（了）

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成22年7月21日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075% (税込み) (約定代金が260,869円以下の場合、3,150円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物 株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20% (税込み) (約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物 株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。